施餓鬼会

イラスト・遠藤由貴子

施餓鬼会は「おせがき」とも呼ばれ、５月から８月のお盆前後にかけて多くの浄土宗寺院で営まれます。餓鬼とは常に飢えと渇きに苦しむ存在で、のどは針の様に細く、食物は炎と化すため、のどを通りません。そのため痩せこけ、腹だけが膨れた姿をしています。施餓鬼会は読んで字のごとく餓鬼に食べ物などを施す法要で、その由来は以下のとおりです。

――ある日、お釈迦さまの十大弟子の一人である阿難尊者のところに餓鬼が現れ、「お前は３日後に死んで餓鬼道に堕ちる。死にたくなければ全ての餓鬼に飲食を施せ」と告げます。驚いた阿難尊者は、どうすればいいのかお釈迦さまに相談しました。お釈迦さまは、餓鬼が食べ物を口にできるようにする作法と少量のお供えを無限大に増やす呪文（陀羅尼）を教え、阿難はそれを実践した結果、餓鬼は苦しみから救われ、命を長らえました。

浄土宗の施餓鬼会は、餓鬼に施しをするだけでなく、苦しみから離れ極楽浄土に往生できることを願って念仏をとなえ、その善行による功徳をご先祖さまに振り向けるという大事な意味があります。心をこめてお念仏をとなえ、だれかれ問わず施しの気持ちをもって参列しましょう。